

木と共に生きて

細田安治

25

現状を検証し今後の生き道を模索したい。新設住宅着工はかつての150万戸時代から100万戸時代を経て、2007年、建築偽装不況、08年、リーマン・ショック以後、同09年78万8000戸、10年には81万3000戸と半減している。需要半減のなかで業界はどうしたら生き残る事ができるか？ 正解のない方程式だ。しかしどこかに正解はあるはずだ。そこで独断と偏見で強引に仮説を考えた。以下はその一部。

1. ノットマルチコンクリ

都心部での木材業者は24時間営業の加工付きソフトマルチコンクリに挑戦してはどうか。

木材の全てに加えて建築家具、環境資材、電気製品、ほかインテリア製品など、住まいに関する全ての資材を在庫する。ここまでは最近流行のプロシヨップだが、一味違うのは充実した高度の加工設備だ。木のカット、削り、電子鋸、塗装、梱包など工業者がこころを求めれば全て間に合う仕組みだ。

24時間営業と専門機械操作のため、マルチのペテラエンツニアが常駐するが、カット、削りなど簡単な加工はお客が操作、カードセットで時間制料金とする。

2. 金融保険付き

マルチ住宅展示場

郊外の木材業者を中心として多機能住宅展示場を設ける。

木材市場の組織を生かし、メーカー、市場会社

3. インターネット

活用販売の組織化

01年(平成13年)、東京ツキ板商工業会は、インターネットを立ち上げツキ板のネット販売にチャレンジ

4. 木材ネット化・工業化木材

都会地の木材業が生き残るためには、不利きものをなんとか利用できないかと、様々試行錯誤したが、結論は個々では、量が多とまらず当てにされない。例えば、フラワーボックスだ。ホームセンターでは中国製の安ものを販売して

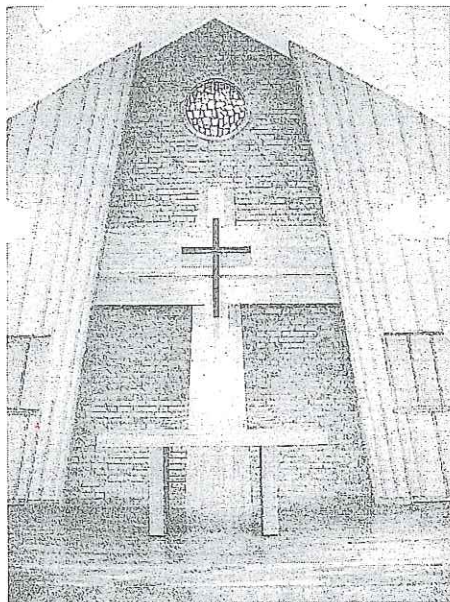
5. 表層圧縮木材

杉などの針葉樹は、比重が低い、空気が細胞中に入り全体が温かい。しかし、その分表面が軟らかく、キズがつきやすく床板などへは使用されていなかった。そこで開発したのが表層圧縮木材だ。

樹脂を含浸させ高圧プレスにより材の表面を10〜20%押しつぶし強化する。これにより、床板に使えるようになる。特徴は、針葉樹の見た目の良さ、温かさを残し、表面硬化によりキズがつきにくくなり一石二鳥の高機能化だ。塗装する際によりキヤスター付き椅子使用に十分耐えられるものだ。これからの高機能化木材として需要の拡大が見込まれる。

私が考える仮説 (上)

(上)



月島聖公会堂の祭壇に使用した特殊液体ガラス塗装

(組合ならば組合が中心)、問屋、小売りの店、工務店(工務店をはじめ建築に関する全ての業者)、不動産、設計事務所、デザイナー

した。残念ながら、業界の理解が得られず目の目を見ることができなかった。そこでここは賢く一歩譲って、木材独自の一品モノに

いる店、加工所、集荷係、販売係、商品開発係などで構成する組織(工場)を設立する。ここまでできれば、充分にやってみよう。

〓 次回は7月2日付〓
(細田木材工業(株)会長)

いるが、品質・性能はニーズに合致していない。安いだけだ。日本製の高級品を販売したい。量がまとまれば販売計画に乗ると言われている。そこで、同志を募り不利きものだけを集める会社を作らせ、一定量をまとめて加工してホームセンター等に売り込む。不利きものを持つて困っている店、加工所、集荷係、販売係、商品開発係などで構成する組織(工場)を設立する。ここまでできれば、充分にやってみよう。

6. 特殊液体ガラス塗料

木材の持つ風合いのまま塗るだけで、塗料の膜をつくらず、浸みこまず、表面を保護するSSG(スーパースルゲル)成分は液体ガラスだ。フローリングや、家具、造作材、カウンタ、キッチンテーブルなどに使用するのが最も適している。用途によってはウレタン塗装やオイル塗装の仕上げ剤としても有効だ。住宅は勿論、商業施設、福祉施設、幼稚園、学校など幅広いニーズに対応できる。ホルムアルデヒド放散量は4☆☆☆☆☆合格品でメンテナンスも容易だ。設計事務所デザイナーの先生方は一度使ってみると、リピートオーダーがあり、認知度は低いがこれからの環境対応商品だ。